

# NARUTO UNIVERSITY OF EDUCATION INTEGRATED REPORT 2024

教師教育のトップランナーへ

鳴門教育大学統合報告書2024



鳴門教育大学マスコットキャラクター  
なる★ワン

## 目次

- 02 ステークホルダーのみなさまへ
- 03 学長メッセージ
- 04 価値創造のプロセス
- 05 ビジョン達成に向けて
- 11 学生支援
- 13 ガバナンス体制
- 15 大学データ
- 18 鳴門教育大学基金



## ステークホルダーのみなさまへ

この統合報告書は、本学の活動と運営を支えてくださるステークホルダーのみなさまに、本学がめざす未来と現在地について、わかりやすくお伝えし、ご理解いただくことを目的とし、2023年度から発行しています。

2024年度版では、本学が掲げるビジョンとそれに基づく取組を、一層わかりやすくお伝えできるよう、掲載内容を見直しました。

本報告書が、みなさまとのコミュニケーションツールとしてさらに充実したものになりますよう、引き続き改善を続けて参りますので、みなさまからの忌憚のないご意見をお寄せください。

アンケートフォームはこちら→



### 「教師教育のトップランナー」 としての役割を担っていきたい

第8代鳴門教育大学長 佐古 秀一

まず、鳴門教育大学の教育・研究並びに大学運営にさまざまな形で関わっていただいているみなさまに、感謝を申し上げます。

鳴門教育大学は、1981年に開学した新構想の教育大学です。「教員のための大学」として設立された本学は、学校の先生方が現職のまま大学院に入学し、学び、研究することを目的としたものです。その後、教員養成を行う学部が設置され1986年に学部学生を受け入れるようになりました。

私たちは、設立の理念に含まれている普遍的な意味をとらえ直し、本学のミッションを「よい教師を一人でも多く」と決めました。言うまでもなく、教員養成大学たる本学は、現職教員に対する教育も含めて、優れた教師を育てることをねらいとしています。教師の育成は、「人を育てる人を育てる」営みであり、次代の社会の在り方に大きな影響を持っています。

今日、社会が急激に変化し、技術の革新が急速に進展しています。このような中で教育課題も複雑化しています。急速な人口減少に直面しているわが国において、一人ひとりが自らのよさや可能性を活かし活躍する社会の実現が強く求められています。同時に、グローバル化の進展等とともに、一人ひとりの個性や特徴をお互いに認め合い、共に生きる社会を実現することも求められています。さらに、ICTに関する技術革新、とりわけ近年におけるAIの急速な技術革新とその浸透は、今後AIを「活用できる」人間を育てることの必要性を浮かび上がらせています。



初年次教育授業での学長特別講義



今後予想される社会や技術の変化は、当然のことながら教育にも大きな影響を及ぼしています。同時に教育の重要性を一層大きなものとしています。私たち鳴門教育大学は、これらの変化を見通して、次世代の教育を担う教師を育てる営みを「創造」していかねばならないと考えています。

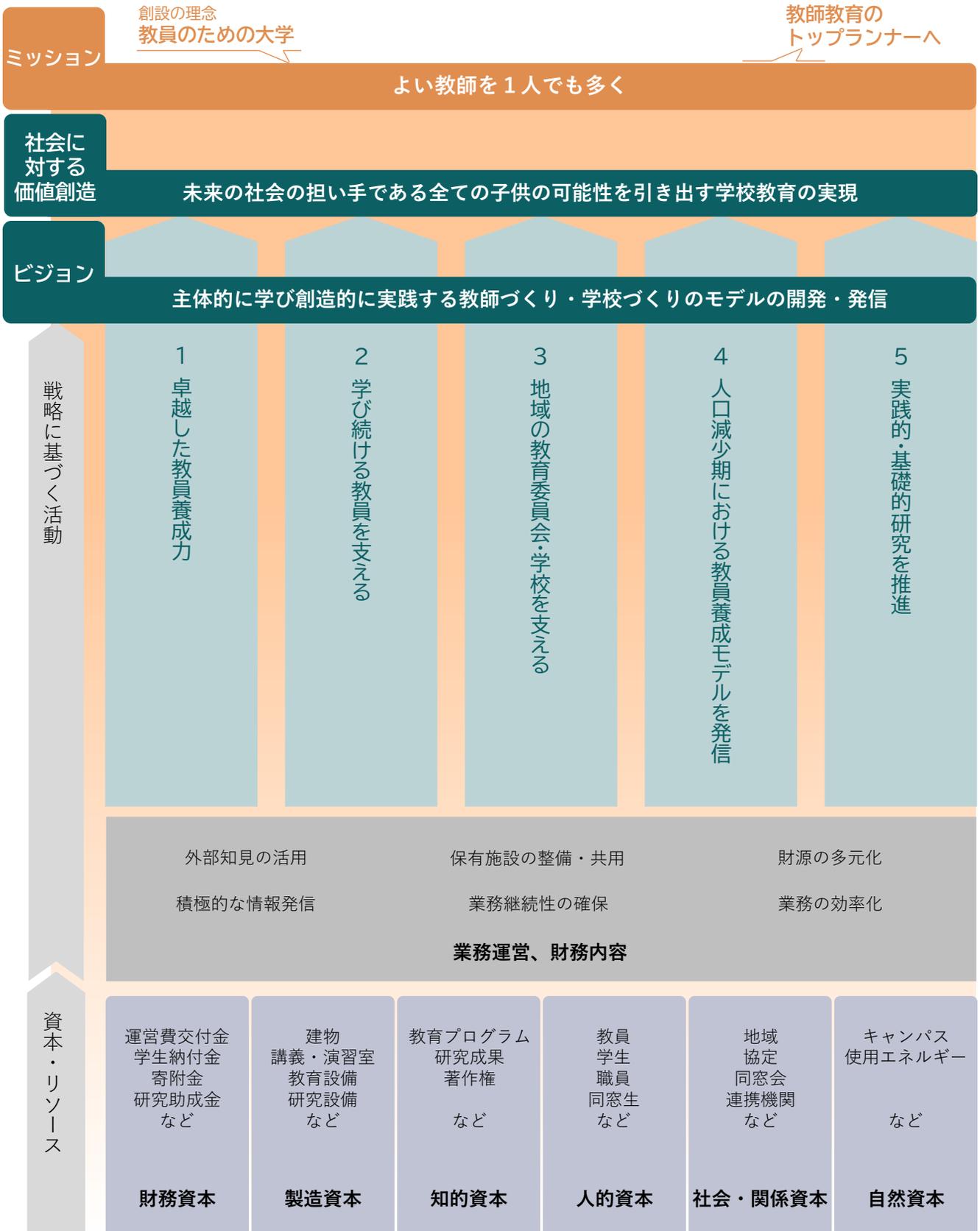
私たち鳴門教育大学は、このような社会情勢をふまえ、第4期中期目標・計画期間中（令和4～9）の目標（ビジョン）を「主体的に学び創造的に実践する教師づくり・学校づくり」を実現することといたしました。私たちは、急速な変化と不確実性が進行する社会において、これからの教師には、さまざまな課題に向き合い、自己がなるべき教師像を確認し、教育課題の解決と自己の教師像の実現に向けて学びを続けていくことができることが何よりも重要だと捉えています。そして、このような教師を育て、かつ、支えていくための戦略（主要な取組）を5つの柱に整理して推進しています。この統合報告書では、本学のおかれた財務状況とともに、この5つの柱を中心にした本学の教師教育の創造に向けた取組とそれらの成果の一端を広く知っていただきたいと考えています。

私たち鳴門教育大学は、新構想の教育大学としての矜持を保ちつつ、社会の変化を見通しながら、これからの教師としての在り方を深く考察し、先導的な教師教育の開発と実践に邁進いたします。そして、ステークホルダーのみなさまとの協働関係も一層強化し、わが国の教師教育を先導する「教師教育のトップランナー」としての役割を担っていきたくと考えております。

今後とも、本学の教育研究にご理解をいただき、みなさまから率直なご意見等をお聞かせいただければ幸いです。引き続き、ご支援、ご指導のほどお願いを申し上げます。



学長だよりをウェブページで公開しています



# ビジョン達成に向けて

## 1 卓越した教員養成力

### 全国トップレベルの教員就職率 - 「なりたい」から「なる」へ

鳴門教育大学では、学校教育における教育課題に対応できる教員を養成できるよう、カリキュラムの不断の点検・見直しに取り組んでいます。

2023年度入学生適用カリキュラムから、ICT活用教育、多様性教育、教科横断的教育等に対応したカリキュラムに見直し、新たなコア科目群として「ICT活用指導力育成科目」、「現代的教育課題対応科目」及び「教育実習科目」を設定し、それらと「初年次教育科目」、「教科・領域教育科目」及び「教職科目」とを結びつけることにより、カリキュラム全体の構造化を図りました。

また、教育課程を通して力量を身に付けた学生が、将来、その力量を発揮できるよう、就職支援も充実させています。

就職支援室には、教員就職支援チーフアドバイザー、就職支援アドバイザーを配置し、学校現場での経験が豊富な退職校長等をもって充てています。就職支援室では、卒業・修了年度の前年7月から1年間のプログラムを組み、全学協力体制の下、就職支援行事（ガイダンス）を実施しています。

教員採用試験は都道府県別で傾向が異なるため、都道府県ごとの対策と指導も実施しています。

教員を目指して入学した学生の努力と、教員養成のための充実した教育課程、上述の支援体制があいまって、2023年12月25日に文部科学省が公表した国立の教員養成大学・大学の2023年3月卒業生就職状況で、鳴門教育大学が教員就職率全国第1位になりました。教員就職率は直近14年間で1位獲得は11回と、高い水準を維持しています。



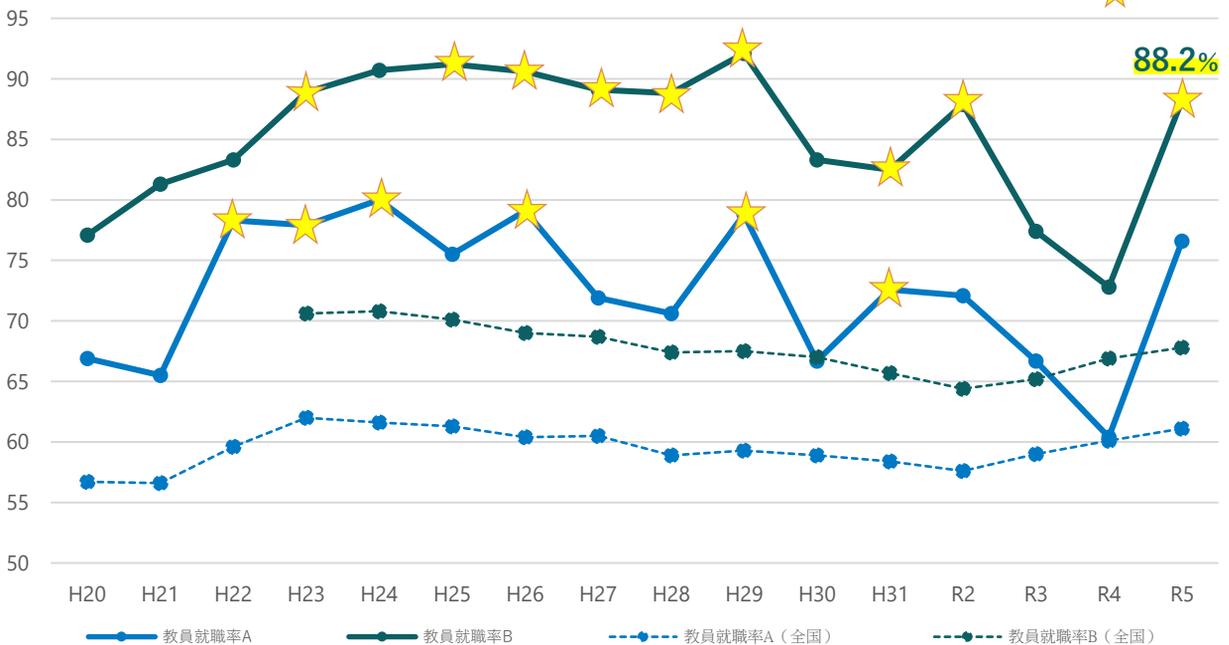
就職支援ガイダンス



就職支援室

学校教育学部卒業生の教員就職率推移

★全国第1位



より詳しく知りたい方は  
大学ウェブページを  
ご覧ください



教員就職率A = 卒業生に対する教員就職率  
教員就職率B = 卒業生数から大学院等への進学者及び保育士への就職者を除いた場合の教員就職率

セルフデザイン型学修の展開 —一人ひとりが特長を生かして活躍できることを目指して

鳴門教育大学では、今後の学習観・指導観の転換を担う教員のあり方として、教師として主体的に学ぶ力を有し、子供の多様性や教育課題の複雑さに対応した教育実践を創り出していく教師（主体的に学び創造的に実践する教師）の養成に取り組んでいます。

しかしながら、全員が同じような教師になることを期待してはなりません。

学生は、一人ひとりが教師としての特長を持っています。そして1人ひとりが自分の特長を生かして教師として活躍することが、子供にとっては大切だと考えています。

そのためには、どのような教師として子供の前に立とうとしているのか、どのような教師になりたいのか、つまり自分の教師像を絶えず創り上げていくことが必要です。

このため、これまでの大学が要求する能力の評価規準（スタンダード）に学生の学修を合致させる教育（規準適応型教育）からの転換を図り、成長課題に向けて主体的な学修（セルフデザイン型学修）を実現できる自己伸長型の新たな教員養成に取り組んでいます。

大学が要求する能力の評価規準（スタンダード）を見直し、新たに、学生の学びのコンパス（指針）として、鳴門パースペクティブを制定しました。

学生は、このパースペクティブを参考に、自分がどのようなことに興味を持っているか、それについて何を考えたか、学年を追うごとにどのように変化しているか、他の学生の興味はどうなっているか、などを確認・省察しながら学修を進めます。

このような学修の実現には、学生個人に任せきっていたのでは困難なところもあります。本学では、学校教育学部1年次必修科目として「鳴教大生 学びの第一歩：学びのセルフデザイン」を設け、成長課題に向けた主体的な学修（セルフデザイン型学修）が身に付けられるよう取り組んでいます。

2024年度には、このセルフデザイン型学修を支えるシステムを開発します。教員養成学修可視化システム「セルデザ」です。蓄積されている日々の気付きや学び、成績データなどを、スマホで確認できるようになります。さらに、学生が継続して取り組めるよう、それぞれの事項においてAIからのフィードバックを受け取れるようになります。

2025年度からは、セルフデザイン型学修と連携・一貫した学びを統合する活動として「鳴教大生セルデザクエスト」という体験の場を設けます。学生自らの課題意識と関連ある地域課題等に対して、学生グループが地域のステークホルダーと一緒に、解決策を模索しながら取り組んでいく予定です。



教員養成学修可視化システム「セルデザ」イメージ



セルフデザイン型学修の体系イメージ

# ビジョン達成に向けて

## 2 学び続ける教員を支える

### 教職大学院遠隔教育プログラム – 今日の学びを、明日実践

教職大学院に対する高い学修ニーズをもちながらも、教育委員会からの派遣での就学が困難な現職教員を対象として、インターネットを活用した遠隔教育によって教職大学院での修学が可能な「教職大学院遠隔教育プログラム」を2022年度から開設しています。

本プログラムは、働きながら学ぶメリットを生かし、日常の実践や教育に対する課題意識に立脚した大学院での学びが可能です。

また、同時に、大学院での学びをタイムリーに実践・検証することで、仕事と学びの好循環を図ります。

仕事をしながら大学院の学修を継続することは簡単ではありませんが、専任アドバイザーを配置し、授業の履修方法や授業での質問等に至るまで大学教員との調整を行い、きめ細やかに学生をサポートする体制としています。

本プログラムのニーズは高く、開設初年度の2022年度以来毎年30人を超える入学者がいます。意欲がありながらも、修学機会に恵まれない現職教員が潜在的に多くいることが想像され、今後も引き続き、学び続ける教員の支援に取り組んで参ります。



今日の学びを明日実践

昨日の実践を今日理論化



遠隔授業の様子

より詳しく知りたい方は  
大学ウェブページを  
ご覧ください



### 学びの交流プログラム – 多様な価値観や文化を許容できる広い視野の養成

鳴門教育大学では、2008年に教科・領域教育専攻国際教育協力コースを新設して以降、開発途上国の教員、教育行政職員などの外国人留学生を、大学院（修士）の正規課程で多数受け入れています。2024年10月1日現在、外国人留学生の人数は72人で、これは修士課程全体の30%超に当たります。

このように、本学は小規模大学でありながら、キャンパスには多様な人々が集っており、日常的に多様な価値観や文化に触れる機会があります。

この特長を生かし、文化的多様性に対応できるリーダー教員を育成する観点から、文化的多様性教育の資質向上を図るための学修プログラム「学びの交流プログラム」を2023年度から実施しています。このプログラムでは、教職大学院で学ぶ現職教員と、修士課程で学ぶ開発途上国の現職教員や教育行政職員等が共に学び合うことで、次の3点の達成を目指しています。

- ① 文化多様性に対応できる資質・能力の向上
- ② 受講者間の経験や考え方、認識の違いから、新たな気づきを生み出す力の向上
- ③ 新たな気づきを生み出す力を高めることにより、受講者の文化多様性に対応できる資質・能力の向上

2023年度は、「学校内における人間関係の課題をどう改善するか？」をテーマに、教職大学院生と留学生が共通の事例を読んだ上で、グループごとに議論、総括、改善提案を行いました。事前・事後のアンケート結果の比較では、このプログラムが異文化間能力の向上に良い影響を与えた可能性が見て取れました。

この取組は、新聞報道にも取り上げられるなど注目を集めており、実施方法等の改善を重ねながら、今後も本プログラムを実施していく予定です。



グループワーク



改善提案の発表

## 日本型教育の海外展開 – 痒いところに手が届く研修

鳴門教育大学の国際教育は、本学の学生が多様な価値観や文化を許容できる広い視野を持ちチャレンジする力を育てることを目指しているほか、開発途上国へ日本型教育システムを展開し広めることにも取り組んでいます。そのために、独立行政法人国際協力機構（JICA）と連携協力して開発途上国教員研修を積極的に行っています。

本学の活動は、①現地調査、②受託研修、③現地フォローアップの一連の流れを一体化した「鳴門教育大学モデル“研修パッケージ”」を構築し、「痒いところに手が届く研修」を目指しています。

事前調査において授業視察、関係諸機関へのインタビュー等を通して現地の現状把握や実態に関する資料収集等を行い、それらを研修の資料として利用し、具体的な改善策を作成します。研修後、授業や業務の視察のために研修員の職場（学校・教育省など）を訪問し、必要に応じて、セミナーやワークショップを実施し、現地教育省への提言等を行っています。

このように、多様な地域、多様な課題の研修を取扱うことにより、本学には国際教育協力の知見・方法が蓄積されています。

本学の研修を中心とした国際教育協力の効果的な枠組み作りは、日本で培った教育資産の海外輸出に大きく寄与するものと考えています。



現地調査



受託研修



現地フォローアップ

JICAの開発途上国教員研修実績

年度	～2020	2021	2022	2023	合計
受託件数	88	6	4	5	103
国数	52	27	21	20	120
研修員数	956	97	63	52	1,168

より詳しく知りたい方は  
大学ウェブページを  
ご覧ください



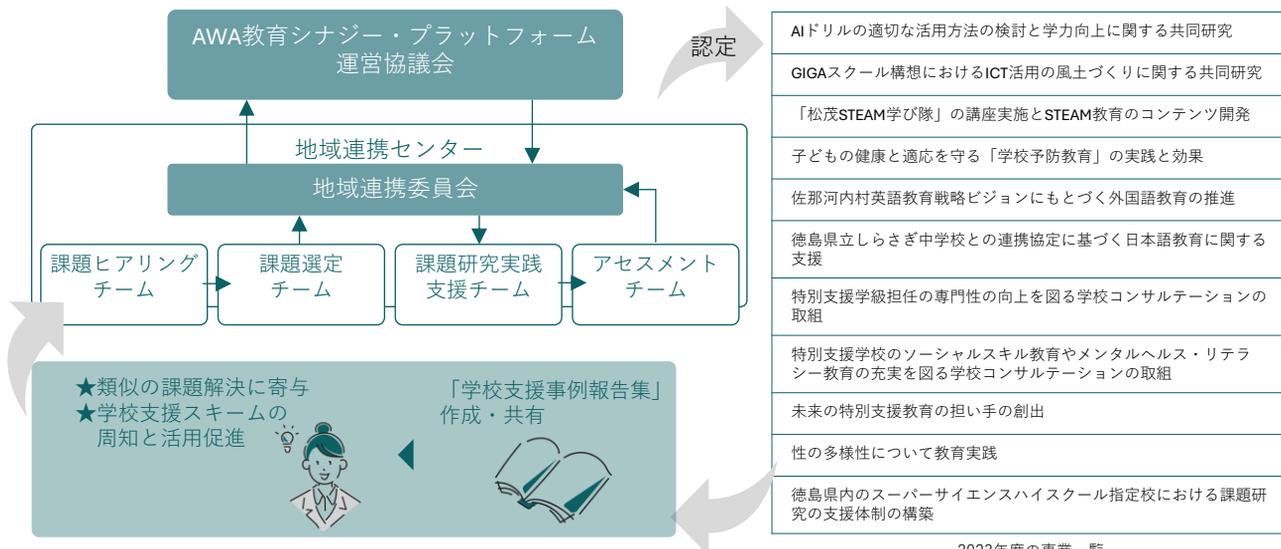
## 3 地域の教育委員会・学校を支える

### オーダーメイド型学校支援 – 教育委員会の教育目標にコミット

「令和の日本型学校教育」の実現に向けた徳島県の学校現場における新たな教育課題解決のために、徳島県内全24市町村それぞれの教育委員会の教育目標にコミットするオーダーメイド型学校支援を実施しています。

課題のヒアリングから、鳴門教育大学内のシーズとのマッチング、課題解決の実際の支援、支援成果の分析・評価のそれぞれのフェーズでチームを編成し、組織的に支援事業を展開しています。

2023年度には、11件の課題を選定し、継続事業1件を除く10件の事例報告を行いました。2024年度は、前年度からの継続事業3件を含む12件の課題に取り組んでいます。



# ビジョン達成に向けて

## 次世代科学者発掘・養成講座 – 次世代の科学者をオール徳島で育てよう

鳴門教育大学が中核機関となり、徳島大学・徳島文理大学・四国大学・阿南工業高等専門学校、徳島県内全ての高等教育機関と徳島県教育委員会、徳島市教育委員会及び鳴門市教育委員会が連携し、次世代の科学技術イノベーションを先導する科学者をオール徳島で発掘・養成することを目的として、「次世代科学者発掘・養成講座」を実施しています。

理数系領域に意欲と才能を有する小学5・6年生及び中学生を対象に、分野領域横断的STEAM教育講座を開講しており、第1期は県内外17小中学校から選ばれた24名が、第2期は県内外23小中学校から選ばれた43名が受講しています。

本事業の前身事業である「ジュニアドクター発掘・養成講座」では、第2期修了生が第55回国際化学オリンピックスويس大会で銀メダル獲得（2023年）、第4期修了生がリジェネロン国際学生科学技術フェア2024で特別賞受賞、第1期修了生が化学グランプリ2024で大賞受賞などの高い成果を上げています。

「次世代科学者発掘・養成講座」でも、未来の科学者の原石を発掘・養成できるように、オール徳島で連携して取り組んで参ります。



化学領域「炭素と炭素をつなぐ  
クロスカップリング反応の探究」



技術学領域  
「3Dプリンタによるもの作り入門」



より詳しく知りたい方は  
大学ウェブページを  
ご覧ください

## 4 人口減少期における教員養成モデルを発信

### 全国初!! 連携教職課程運用 – 教員養成は四国から

地域ブロックレベルでの教員養成機能の効率化・高度化を両立（最適化）する「広域分散協働型教員養成モデル」として、四国全5国立大学における「連携教職課程」を2023年度から開設し、運用しています。連携教職課程の設置・運営は、四国地域の連携によるものが全国初です。

連携教職課程とすることで、大学間で専任教員・授業科目の一部共有が可能となり、香川大学・愛媛大学・高知大学の各教育学部では、新たに高等学校1種（情報）の教職課程を開設することができました。

さらに、四国地域の連携教職課程ならではの取組として、参画大学間の教員が協力し、これまでにない魅力的な新しい授業科目を創っています。

**四国5国立大学による連携教職課程 – 教員養成は四国から –**

<b>概要</b>	■四国5国立大学において、特定の教科について「授業科目」の一部共有が可能となった。 他大学開講の授業、連携大学共同による新規科目、専門性に高んだ外部講師を招聘し学びを深める科目などを通じて、単独大学の教育リソースだけでは満たせないカリキュラムを展開。								
<b>構成大学 開設免許種 ※R5開設予定</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">免許種</th> <th style="width: 50%;">構成大学</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美術（中・高一種）</td> <td>徳島大学、鳴門教育大学、香川大学</td> </tr> <tr> <td>家庭（中・高一種）</td> <td>鳴門教育大学、香川大学、高知大学</td> </tr> <tr> <td>情報（高一種）</td> <td>鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学</td> </tr> </tbody> </table>	免許種	構成大学	美術（中・高一種）	徳島大学、鳴門教育大学、香川大学	家庭（中・高一種）	鳴門教育大学、香川大学、高知大学	情報（高一種）	鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学
免許種	構成大学								
美術（中・高一種）	徳島大学、鳴門教育大学、香川大学								
家庭（中・高一種）	鳴門教育大学、香川大学、高知大学								
情報（高一種）	鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学								
<b>理念</b>	■四国地区の5国立大学が広域的に連携することにより、教職課程の魅力化、高度化を実現 四国地域における一層厚みのある教員養成の実現を目指すコンセプト <b>分散協働型の広域連携</b>								
<b>ねらい 効果</b>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p><b>(1) 教職課程の豊富化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■幅広い領域をカバーする教員組織</li> <li>■他大学との連携による一層幅広い授業の提供</li> <li>■大学を超えた魅力ある合同授業の実施</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>(2) 教職課程の特色化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■連携大学共同による新規科目開設</li> <li>■四国の文化・地域性を活かした科目開設</li> <li>■地域の活性化に貢献する授業開設</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>(3) 学生間交流の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■大学間の学生交流によるコミュニケーション能力の育成・向上</li> <li>■同じキャリアを目指す若手同士の間際関係の構築や切磋琢磨による学生意識の向上</li> </ul> </div> </div> <p style="text-align: center; color: #0056b3; font-weight: bold;">魅力ある教職課程の実現</p> <p style="text-align: center; color: #0056b3; font-weight: bold;">教師を目指す学生が四国に集まる「教員養成は四国から」</p>								

2023年度は運用開始1年目で開講科目が少なかったですが、2年目・3年目になるにつれて開講科目が増え、魅力的な新しい授業科目も開講されていきます。

2024年9月には、参画大学が協力し、家庭科の授業科目で、世界的建築家の隈研吾氏を特別講師にお招きした授業を実施しました。また、2025年度には、美術科の授業科目で、参画大学の学生が集まり香川県県木島でのフィールドワークも計画しています。

連携ならではの問題・課題も表出してくると思いますが、5大学で連携して魅力ある教職課程を実現していきます。



より詳しく知りたい方は  
四国地域大学ネットワーク  
機構ウェブページを  
ご覧ください

徳島スーパールーキー教員養成プログラム – 地域小規模校の中核的教師を養成する

鳴門教育大学が徳島県教育委員会と連携して取り組む「徳島スーパールーキー教員養成プログラム」が、文部科学省「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」に選定されました。

徳島県では、この10年間で小学校に入学する児童数が約12%減少しています。この傾向は今後加速化し、2030年度には、現在から19.5%の減少となることが予測されています。再編統合により学校数が減少する一方で、児童の通学の難点等の理由で再編統合にも限度があることから、小学校の小規模化が進行し、県内全域に小規模小学校が点在する状況が想定されます。

徳島県の小学校の小規模化の実態は、単学級校の増加であり、さらに単学級校を下回る過小規模校の増加です。今後は小規模化する学校及び地域の教育力を維持・充実させるための方策が必要不可欠となっています。

そこで、鳴門教育大学では、学校の小規模化の中でも、学校間連携を推進し学校力を強化できるとともに、そのために必要な知識・スキルを学び高め続けていける教員の養成に取り組めます。

このプログラムを通じて、徳島県教育委員会との連携をより強化し、協働して新任教員の養成－採用－研修の一体化を推進し、教師教育の改善に取り組んで参ります。

コホートによる協働学修	教職大学院（1年間）		※オンジョブで最終成果報告書の執筆・公表		
	実務経験（1年間）		※教員採用1年目		
	教職大学院（1年間）		※学部4年次に教職大学院授業を先行履修		
	学校教育学部（4年間）		※本プログラムにより入学希望の高校生が先行履修可能		
	セルフデザイン型学修応用科目群	教育改善探究科目群	地域教員実習科目群	小規模校学校教育改善科目群	ICT活用・データサイエンス科目群
徳島県中核教員養成科目群					

5 実践的・基礎的研究を推進

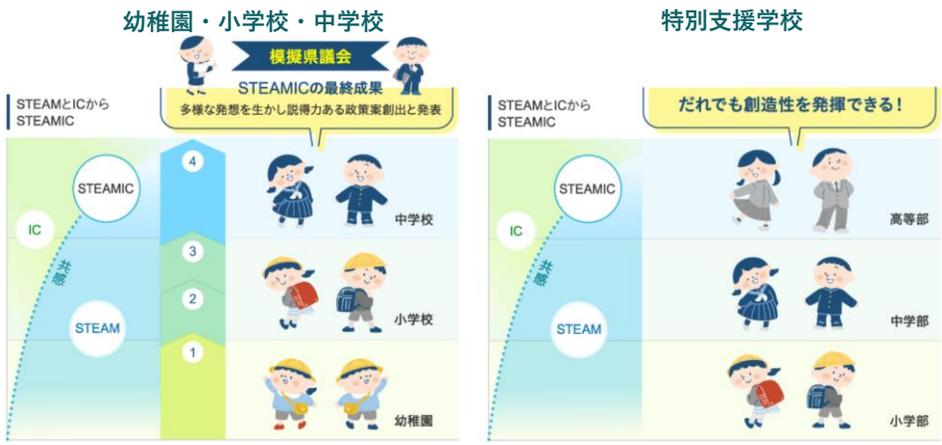
STEAMIC教育 – 共生社会の実現に向けて

附属学校の取り組むSTEAMIC教育は、STEAMとICの2つから構成されています。

ICとは Inclusive Citizenship (包括的な市民権)であり、多様な人々の市民権を認められる人間、多様性を理解し共感できる社会の構成員の養成を目指しています。

STEAM教育を科学技術人材の育成にとどまらず、広く「市民育成」の側面でも捉え、学習者それぞれの個性を生かし、感性を育むとともに、複雑化した現代社会で互いの多様性を包括しながら現代社会でより良く生きる市民の育成を目指そうとするものです。

2023年度までの開発・試行期間を経て、2024年度から本格実施しています。



より詳しく  
知りたい方は  
大学ウェブページを  
ご覧ください



- 1：幼稚園での学び(STEAMとICの芽吹き)
- 2：小学校1、2年生での学び(ICの意識)
- 3：小学校3～6年生での学び(ICの育成から共感へ)
- 4：中学校での学び(STEAMとICが統合してSTEAMICへ)

## 学生支援

### 修学支援体制

鳴門教育大学では、学生の属性に応じて適切な支援ができるよう、組織的なサポート体制を整備しています。

#### クラス制度

学校教育学部では、専修・教育コース別にクラスを編成します。各クラスに担当教員を置き、教員と学生及び学生相互の交流を深め、学生の修学、学生生活等に関する事項について、担当教員が指導助言を行います。

#### 研究指導教員

大学院修士課程では、1年次から研究テーマに応じた研究指導教員を置きます。研究・論文指導の他、学生生活やその他修学・就職に関することについてもサポートします。

#### 実習担当教員

大学院専門職学位課程（教職大学院）では、1年次から実習担当教員として実習責任教員、実習指導教員を各1人置きます。実習責任教員が授業履修などを総括的に指導し、実習指導教員は実習指導を担当します。

#### 長期履修学生支援 アドバイザー

大学院の学校教員養成プログラム、資格取得プログラム受講生をサポートするために、専任アドバイザーを置いています。アドバイザーごとに少人数のクラスを編成し、修学指導や教育実習のほか、学生生活に関するサポートにも当たります。

#### 遠隔教育プログラム アドバイザー

教職大学院遠隔教育プログラム受講生をサポートするために、専任アドバイザーを置いています。授業内容や授業履修方法に関する相談・支援のほか、大学生生活全般に関する相談・支援にも当たります。

### 修学環境の充実

#### 自主学修環境

附属図書館は、教科書、指導書、教育関係資料ほか37万冊を超える資料を所蔵しています。学生の学修・研究環境を充実させるため、平日は21時まで開館しており、土曜日、日曜日、祝日（学生休業期間を除く）も開館し、広く一般市民にも開放しています。教育関係資料では、国語・教育学分野を中心とした図書（約2万5千冊）を集めた「野地潤家文庫」（野地元学長寄贈）、著名な教育実践家であった大村はま氏寄贈の学修の記録・文献等（約1万冊）を集めた「大村はま文庫」があり、学生の利用に供しています。

館内には、1人で集中して学修するための研究個室やキャレルデスク（個人用机）、グループで学修するためのセミナー室、視聴覚資料や情報機器、英語学習資料を活用できるメディア・commonsを備えています。別棟のラーニング・commons室には、小学校の教室の環境を再現した模擬授業エリアがあり、黒板や電子黒板、ホワイトボードなどを備え、教員採用試験対策や模擬授業などに利用されています。

そのほか、専修室や院生研究室とは別に、キャンパス内各所に学生が気軽に使用できるスペースを設けており、自主学修やディスカッション・団らんに活用されています。



ラーニング・commons室模擬授業エリア



総合学生支援棟1階ロビー

## 未来の教師を育む教室づくり

鳴門教育大学は、次世代の教師教育を創造すべく、「セルフデザイン型学修」のモデルを開発試行しています。学生がより主体的・協働的に、そして探究的に自らの学びを創造することをねらいとして、カリキュラム、指導体制、教育環境の一体的に改革しています。

この教師教育の実現のために、講義室等の教育環境を改修し、GIGAスクール構想下の学校現場に先んじた設備を導入します。

創設以来の教室環境を、学生が能動的・協働的に学びを進めていくことのできる柔軟な教室環境へ転換するとともに、大型のディスプレイや 프로젝タを駆使し、学生同士・学生と大学教員がPCを活用しながら縦横にやりとりできる空間を創出する教室環境の整備に、ステークホルダーのみなさまのご協力を得ながら取り組んでいます。



## 経済的支援

経済的な理由により授業料等の納付が困難で、かつ、学業優秀と認められる者などに、その納付を免除しています。2023年度の免除実績は次のとおりです。

### 入学料免除

1,466万4,000円  
73人（全体の22.9%）

#### 学校教育学部

338万4,000円  
15人（全体の14.3%）

#### 大学院

1,128万円  
58人（全体の27.1%）

### 授業料免除

7,398万5,050円  
199人（全体の20.1%）

#### 学校教育学部

2,696万8,600円  
69人（全体の15.6%）

#### 大学院

4,701万6,450円  
130人（全体の23.7%）

※寄附金による免除を含む。

また、大学院高度学校教育実践専攻（教職大学院）は、厚生労働省の専門実践教育訓練の指定講座となっています。これにより、一定の条件を満たす者は、授業料・入学料で負担した費用の一部の支給を受けることができます。

入学料・授業料免除について  
詳しく知りたい方は  
大学ウェブページをご覧ください



専門実践教育訓練制度について  
詳しく知りたい方は  
大学ウェブページをご覧ください

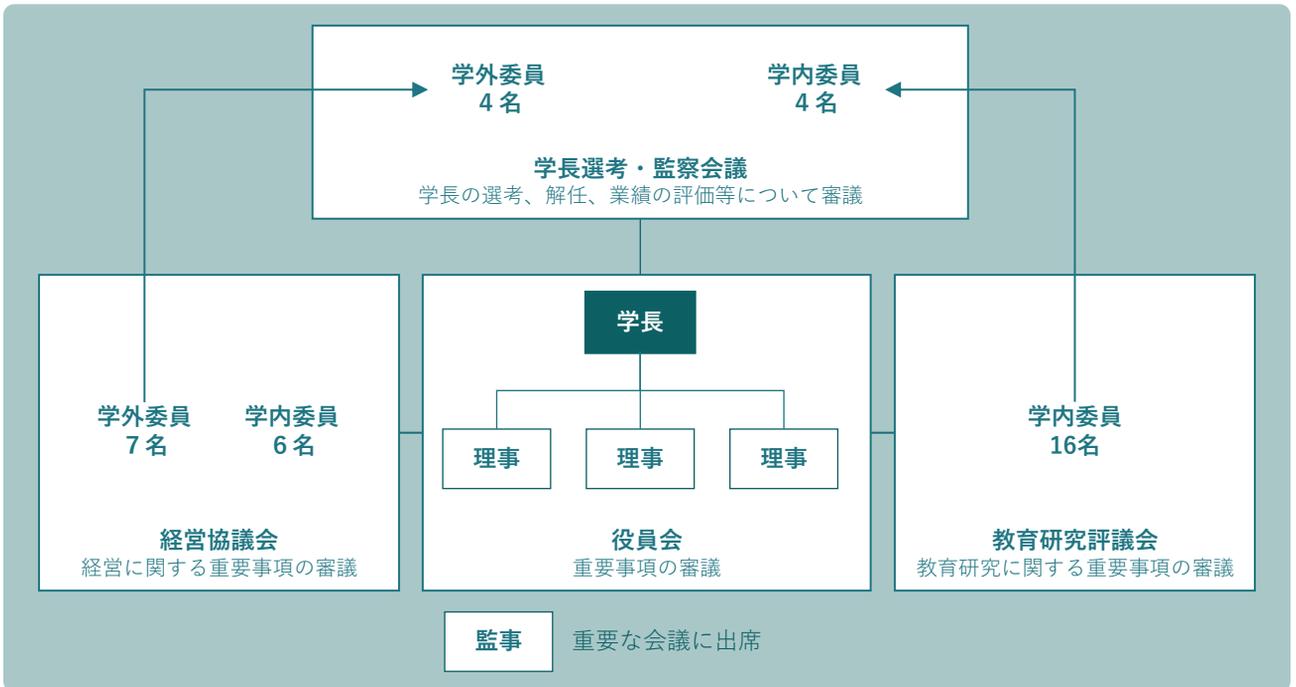


# ガバナンス体制

## 自主的・自律的・戦略的な法人経営を可能に

大学が社会に貢献するために教育と研究の質の向上を図り成長、発展し続けることができるよう、組織内部において適切な執行と監督の仕組みを構築するとともに、大学経営の状況や意思決定の仕組みについて透明性を確保し、関係者への説明責任を果たすことが重要（「国立大学法人ガバナンス・コード」より）とされています。

## 意思決定の体制



鳴門教育大学では内部統制委員会を置き、役員会をもって充て、運営の監督機能を強化しています。

また、国立大学法人法の規定により、学長の重要事項に係る意思決定については、役員会、経営協議会、教育研究評議会の審議を経て行う体制としています。運営の透明性を高めるため、監事がこれら会議に参画し、意見を述べる体制も整備しています。

他方、経営事項に関する学外者の意見を反映できるよう外部経営協議会に外部有識者7名が参画し、年6回以上開催しています。

## 役員



学長  
佐古 秀一



理事  
梅津 正美



理事  
美馬 持仁



理事  
田中 弘之

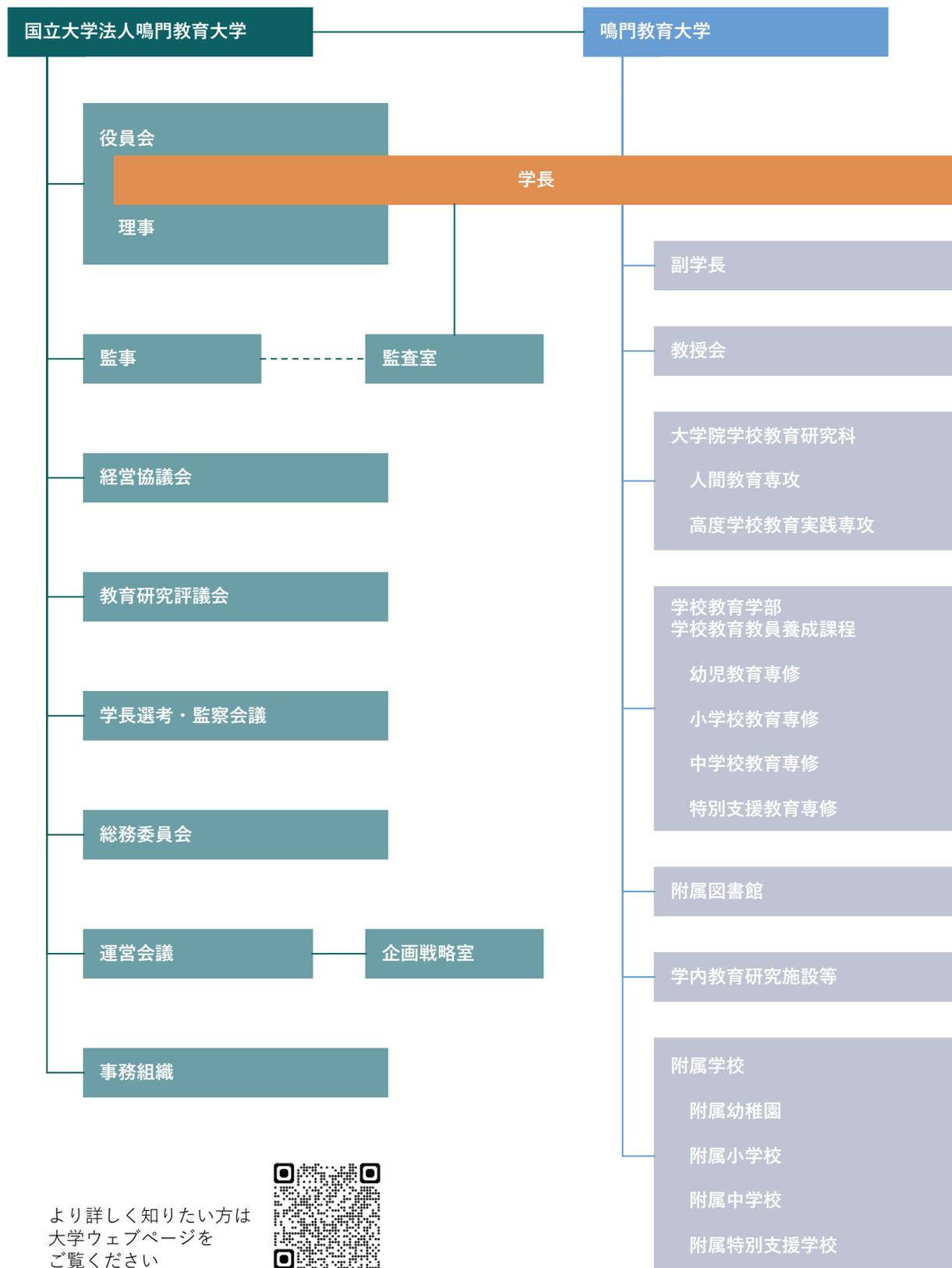


監事  
藤本 浩之



監事 (非常勤)  
真鍋 恵美子

運営・教育研究組織



より詳しく知りたい方は  
大学ウェブページを  
ご覧ください



## 大学データ

学生・教職員数等（2024年5月1日現在）

### 学生数

981人

学部生

440人

大学院生

541人

### 役員・教職員数

326人

役員

6人

大学教員

126人

附属学校教員

92人

事務職員・その他

102人

### 卒業・修了者数

12,189人

学部卒業者

4,773人

大学院修了者

7,416人

2023年度学部卒業者

111人

2023年度大学院修了者

215人

### 附属学校 幼児・児童・生徒数

1,185人 特別支援学校 60人

幼稚園

130人

小学校

595人

中学校

400人

### 就職状況（2023年3月卒業・修了者）

学部教員就職率（保育士・進学者を除く）

88.2%

教職大学院教員就職率（現職者を除く）

90.8%

### 予算規模

51億7千万円

運営費交付金収入

35億円

自己収入

6億2千万円

### 蔵書数

37万冊超

### 土地面積（附属学校含む）

326,583m<sup>2</sup>



より詳しく知りたい方は  
大学概要をご覧ください

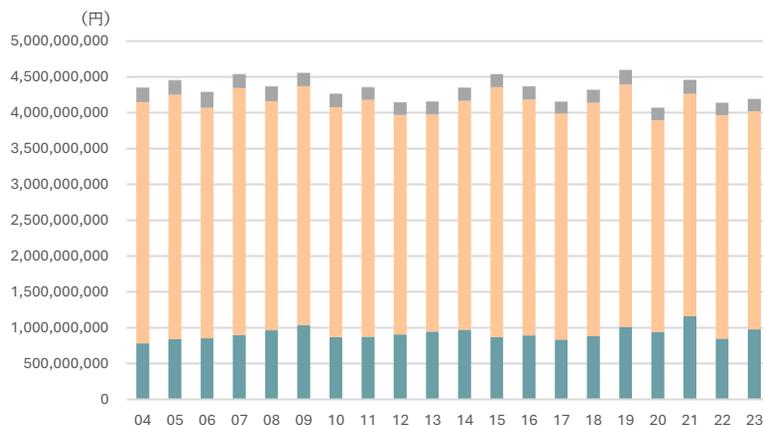
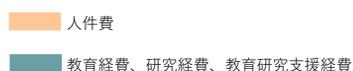
財務情報

経常費用の推移

鳴門教育大学の事業規模は、2004年度の法人化以来、ほぼ横ばいで推移しています。

経常費用のうち、70～80%を人件費が占め、人件費以外の業務費は20%前後です。

電気代の高騰などがありますが、教育研究活動に十分な予算を割けるよう、引き続き業務の効率化に取り組んで参ります。

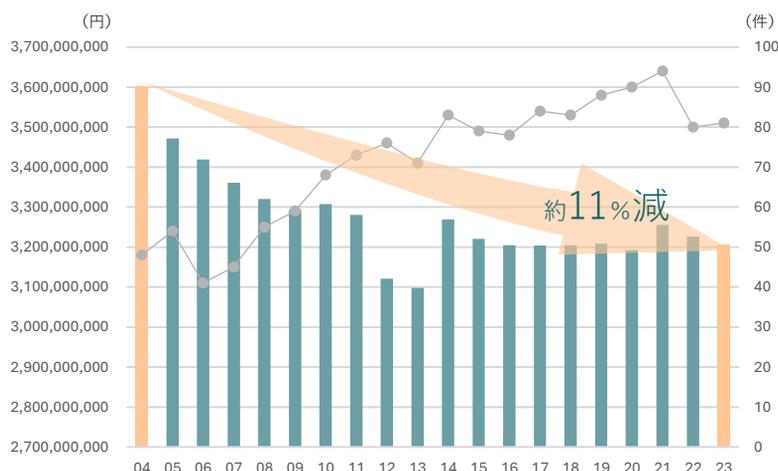


運営費交付金の推移

運営費交付金は法人化時から約11%減少しています。

学生定員1,000人の小規模大学であることから、学生納付金の大幅増も難しく、このような状況の中、研究予算は科学研究費助成事業などの競争的資金の獲得に努めるほか、自己収入や外部資金など財源多様化による財政基盤の強化に取り組んでいます。

※右図の運営費交付金収入は、主に退職給付等のみ充当する特殊要因運営費交付金を除いた額です。国立大学法人会計基準により、運営費交付金「収益」と、運営費交付金「収入」は一致しませんので、ご注意ください。

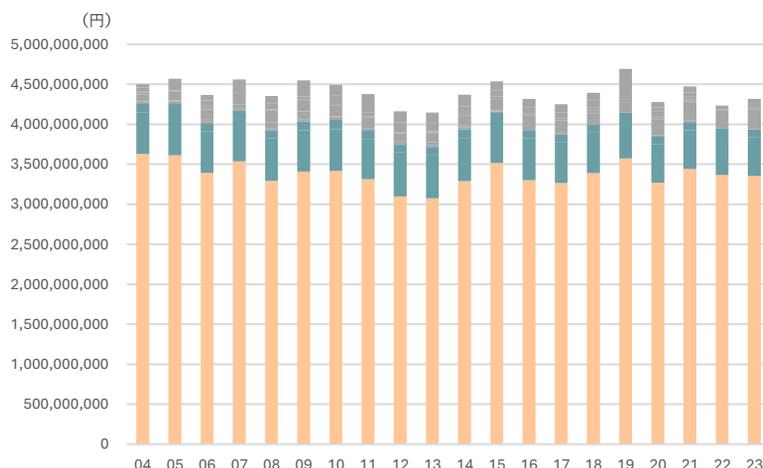


経常収益の推移

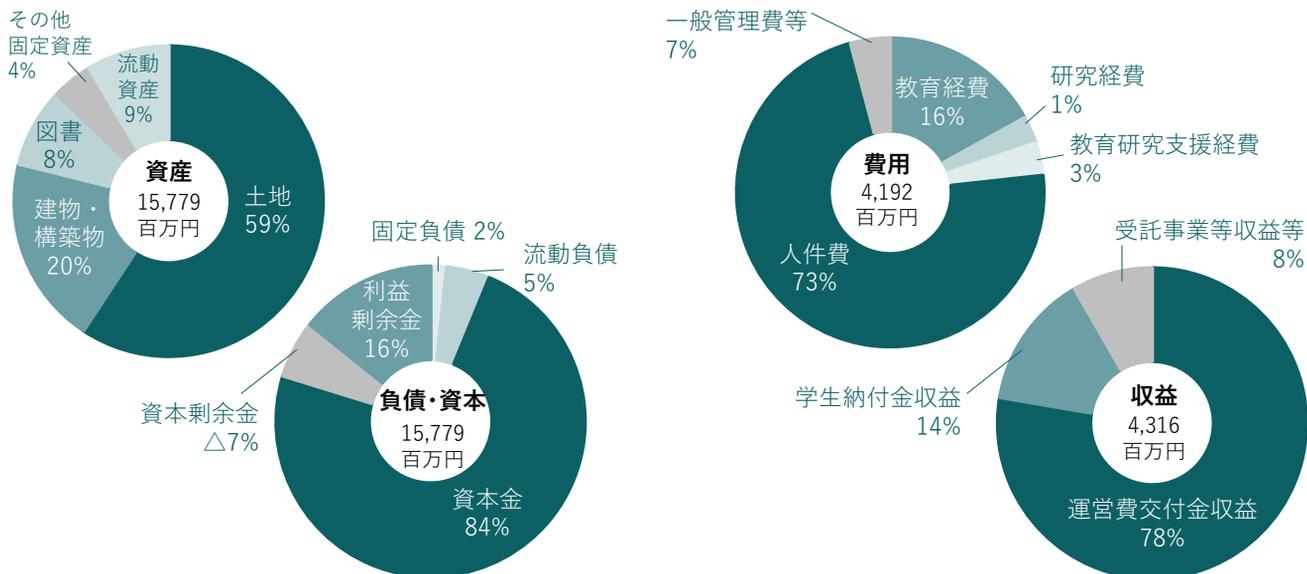
鳴門教育大学のさまざまな取組は、運営費交付金、学生納付金、外部資金など、多様な財源により支えられています。

収益の70～80%を運営費交付金収益が占めています。

次いで、学生納付金収益が続きますが、学生定員1,000人の小規模大学であることもあり、他の教育大学に比しても学生納付金収益が占める割合は小さくなっています。



## 2023年度決算の概要



鳴門教育大学の特徴として、資産の大半がキャンパスの土地や建物・構築物で構成されており、資産全体の約80%を占めます。

そのほか、附属図書館所蔵の図書と、流動資産がそれぞれ10%弱となっています。

流動資産の大半は、現金及び預金です。

2023年度は、共通研究E棟の改修などにより、建物が増加しました。

例年と同様に、費用では人件費が、収益では運営費交付金収益が全体の70%以上を占めました。

共通研究E棟の改修工事による修繕費等のため、前年度よりも教育経費が増加しました。

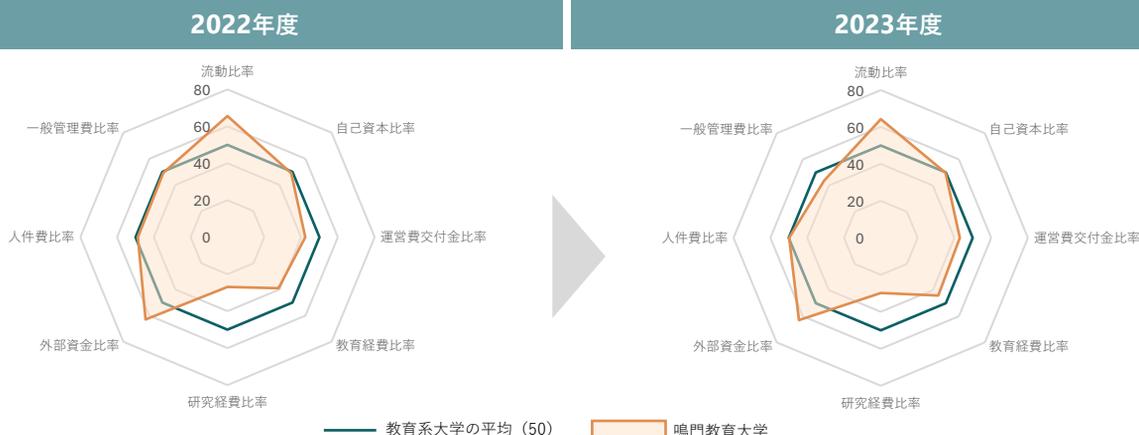
一方で、退職職員数の減少による退職給付費用が減少したため、人件費は前年度よりも減少しています。

財務諸表をウェブページで公開しています



## 財務指標によるレーダーチャート

財務指標は、国立大学法人の財政状態と運営状況を総合的に把握し分析する上で基礎となるものです。教育系大学の平均比率（指標値）を50としたとき、鳴門教育大学の指標値は以下のようになります。



※教育系大学：教育系学部のみで構成される10国立大学法人（北海道教育、宮城教育、東京学芸、上越教育、愛知教育、京都教育、大阪教育、兵庫教育、福岡教育、鳴門教育）  
 ※指標値は外側に行くほど財務上の評価が高くなるよう表示（運営費交付金比率、人件費比率、一般管理費比率については逆数を使用）

## 基金創設の趣旨

鳴門教育大学は、1981年の創設以来、一貫して、教員としての使命感と人間愛に基づいた高度な資質能力を持つ教員の養成に努めて参りました。

近年では、学部卒業生の教員就職率が、全国の44教員養成系大学・学部において第1位を達成するなど全国トップレベルの教員就職率を継続しています。

2022年度からは、教職大学院に遠隔教育プログラムを導入し、働きながら学ぶことのできる教育システムを開発・実践しています。

本学としては、今後とも引き続き優秀な教員等を社会に送り出していくために、学生に一層質の高い教育や支援を行って参る所存ですが、そのための安定した資金の確保は、喫緊の課題です。

このようなことから、次代を担う学生たちの豊かな未来のため、また、本学の社会的使命を果たすためにも、本学の同窓生をはじめ、広く産業界、地域のみならず、寄附を募る「鳴門教育大学基金」を本学に創設いたしました。

鳴門教育大学基金では、学生支援、国際交流、社会・地域貢献、教育研究支援、キャンパス・学修環境充実、附属学校園支援や経済的な理由により修学が困難な学生等に対する修学支援事業等を行っております。

どうか、本基金創設の趣旨にご賛同いただき、格別のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 基金の事業概要

### 学生支援事業

学生会館（食堂）における学生の食費補助や、課外活動団体等の活動支援



### 児童図書室の充実

附属図書館が主催するイベントの支援や、児童図書室「子どものころを理解するための絵本データベース」の更新を支援



### 顕彰事業

優れた業績を上げた本学の学生を表彰（溝上賞）



### 国際交流事業

協定校への留学、私費外国人留学生の修学・国際交流事業等を支援



## ご支援のお願い

### 手続き方法などの詳細はこちら

銀行振込・現金寄附・オンライン決済での寄附が可能です



### 税制上の優遇措置情報はこちら

個人の寄附者  
所得控除方式又は税額控除方式の選択が可能です。

法人の寄附者  
全額損金算入が可能です





Webページ



YouTube



Facebook



Instagram



X